

## P-1-1 : URA組織・人材・役割

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 戦略的活動アーカイブを起点とするURA活動の高次元化

○田上 款、大西 将徳、岡崎 麻紀子、鈴木 紀子、森脇 一匡、関 二郎  
京都大学学術研究支援室(KURA)

URA組織の拡大と機能の複雑化は、URAの活動幅を広げる一方、活動全体像の把握を難しくしている。その結果、個々の活動は点として孤立し、活動を俯瞰する網羅的視点に立った活動戦略の提案が実現されていない。これらの課題解決には、活動戦略の立案を見据えた戦略的なURA活動のアーカイブが必要となる。

京都大学学術研究支援室(KURA)では、上記の視点に基づき研究者とURAのコンタクト情報の網羅的収集に取り組んできた。統一基盤を用いた情報の蓄積は、URA間の情報共有を密にし、組織の活動概況の把握に貢献している。今後は、蓄積した情報をもとに個々の活動の連関性を理解することが課題となり、URA活動を点ではなく線や面として捉えるツールとして本手法を深化させる必要がある。本発表では、これらの事例と共に、URAを研究力強化の基盤機能に押し上げる手段として戦略的活動アーカイブを捉え、その手法と意義を議論する。

## P-1-2 : URA組織・人材・役割

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 国立大学法人のマインドセットを変える！ ～トップダウンとボトムアップの...～

江端 新吾  
東京工業大学 総括理事・副学長 特別補佐、広報・社会連携本部 教授

文部科学省リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保する事業が終了し、研究大学強化促進事業も終盤に差しかかっている現在、URAの役割は多岐にわたり、URA自体の存在意義が政策現場、大学現場等で問われ始めている。筆者は北海道大学URAとしての様々な活動から、トップダウン及びボトムアップの両側面の重要性とそのバランスを「大学経営の視点から戦略的にマネジメントすること」こそ、国立大学法人のマインドセットを変えるために最も重要であると考えている。

本発表では、筆者が研究者、北大URA、NISTEP研究官、文科省委員、内閣府フェロー、そして東工大プロボスト補佐として経験してきた様々な事例やキャリアを通じて起こしている「マインドセットを変える大きなムーブメント」の最新の動向について紹介する。特に、第6期科学技術基本計画や統合イノベーション戦略等の政策や、国立大学法人の経営戦略、研究戦略、そしてそれらの戦略に基づく研究支援のあり方について多くのURA関係者と議論したい。

## P-1-3 : URA組織・人材・役割

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 東京大学大学院理学系研究科・理学部におけるURAの役割及び活動

○馬場 良子<sup>1)</sup>、野上 識<sup>2)</sup>、ハリス・ケイト<sup>2)</sup>、星野 真弘<sup>2)</sup>

1)東京大学大学院理学系研究科、2)東京大学大学院理学系研究科研究支援総括室

東京大学大学院理学系研究科研究支援総括室は2012年に研究科長の下に設置され、理学系研究科の研究・教育活動を学際的・国際的な視点から支援している。2019年6月現在、副研究科長を室長とし、物理学、化学、生物学の専門知識を持つ3名のURAが教員、事務組織と連携しながら活動している。研究支援総括室の活動は、理学系研究科の概算要求事業や外部資金の獲得だけでなく、研究科の研究力分析、研究体制の支援、プロジェクト運営など多岐に渡る。

本ポスター発表では、研究支援総括室の組織概要や、執行部を含む教職員と協働した活動実績例、URA業務確立に向けた活動を紹介する。さらに、研究科の運営体制に対する提案や、財源多様化に向けた研究科内の寄附活動拡大に関する企画段階からの貢献、大学本部と連携した活動も含め、URAが担う役割について議論する。

## P-1-4 : URA組織・人材・役割

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 研究支援業務に係るURAと事務職員の業務形態(業務分担・協働)

○花岡 宏亮<sup>1)</sup>、池田 一郎<sup>2)</sup>

1)大阪大学共創推進部社会学共創課、2)筑波大学研究推進部外部資金課

発表者は、事務職員の立場から、研究支援業務の質を高めるには、URA等高度専門人材(URA)と事務職員が各々の有する能力や資源を最大限生かすことのできる業務形態を設計していくことが必要と考えている。

本発表では、複数大学への調査した結果等を踏まえ、URAと事務職員の業務形態(業務分担・協働)について報告するとともに、発表者が2014年から継続して検討している「URA職と事務職員の連携モデル」について、私見を述べる。

URAと事務職員の業務形態は各研究機関それぞれの工夫の結果と考えているので、ポスターセッションでは、各大学での業務のかたちについて意見交換したい。

## P-2-1 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 大分大学における論文投稿に関するアンケート調査

○樋口 明弘、安部 恵祐  
大分大学 全学研究推進機構

競争的資金獲得には研究業績、中でも査読のある学術論文は重視されている。近年、学術論文発表の場として、Scientific Reportsなどのオープンアクセス(OA)雑誌が増えているが、これらは論文掲載などに係わる費用を著者が負担するため、高額であり、少なからず研究費を圧迫している。さらに、特に自然科学系では国際雑誌での発表が主体であるため、英文校正にかかる費用も発生する。2018年度に、我々は本学医学部の教員を対象に、OA雑誌および英文校正に関するアンケートを実施した。その結果、投稿時に英文校正を利用した教員は80%を越えていた。この結果を踏まえて、複数の校正業者の協力の下に、校正料金の学内割引サイトを作成し、論文投稿数の上昇および研究力の強化を図ることにした。本発表では論文発表数、校正業者の利用率の変動などについて報告する。

## P-2-2 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 京都大学の学内ファンド:学際・国際・人際融合事業 「知の越境」融合チーム研究プログラム「SPIRITS」の成果とこれから

○岡崎 麻紀子、天野 絵里子、森脇 一匡  
京都大学学術研究支援室

京都大学では、H25年度より融合チーム研究を支援する学内ファンドプログラム「SPIRITS」を提供している。このプログラムは、国際化の推進、未踏領域・未科学への挑戦、イノベーションの創出を加速させることを目的とし、学術研究支援室のURAが運営している。SPIRITSプログラムは今年で6年目を迎え、その間、ロジックモデルを用いた企画立案、やプログラムの見直しを行い、より良いプログラムを目指し改善が行われてきた。その結果、支援プロジェクトも述べ100件を超え、各プロジェクトが新たな研究分野の創出やより大きなプロジェクトへ発展するなど様々な成果を出している。一方で、SPIRITSプログラムが掲げる理念に見合う成果が出ているのか、プログラムの評価については未だ検討の余地がある。今回はプログラムの概要やその成果を紹介すると同時に、課題やこれからについて意見交換を行いたい。

## P-2-3 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### NINS・ROISとの共同利用・共同研究による研究アウトプット 分析の課題と展望

○壁谷 如洋<sup>1)</sup>、佐野 恵利子<sup>2)</sup>

1)大学共同利用機関法人 自然科学研究機構(NINS) 研究力強化推進本部、  
2)大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構(ROIS) 戦略企画本部 IR推進室

大学共同利用機関法人は、世界最高水準の「学術研究」を推進する中核的研究拠点として、先導的研究の実施と共同利用・共同研究(以下、共共)による大学支援をミッションとしており、大規模な施設や設備、データベースなどの知的基盤を整備して全国の大学等研究者に共同利用として供している。

一方、最近では、成果を基に運営費交付金を配分するなど、エビデンス重視の施策が進んでいる。共共に対しても、各大学の研究力強化へどのように寄与しているのかを把握することは重要である。

今回、研究アウトプットとして論文を取り上げ、トップ10%論文やNature Index論文群において、(NINS・ROISの)共共の寄与がどのような傾向になっているかを分析した。共共の成果論文には、我々機関の研究者が共著に入っているものと、機器等の利用による論文だが共著に入っていないものがあり、後者の把握は非常に困難である。共共成果の把握の課題と解決に向けた取組等の紹介もしたい。

## P-2-4 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 研究力分析IRと研究支援活動の協業 —その機能的連携を目指して—

○中島 聡、西澤 真裕、中塚 祐子  
奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構

研究力分析のIRは大学の経営戦略策定など、大学の意思決定に欠かせない重要なものとなってきている。URAの研究支援業務に関しても、IR情報に基づいて支援のための方策やその出口目標を考えることは、重要である。特に昨今、PDCAサイクルを回して支援業務のアウトカムについてコミットしているかどうかを検証することが必須になってきている現状では、そうしたIR情報を活用することは不可欠になってきているといえる。本学ではいくつかの研究支援業務に関して、IR情報を活用した支援方針や、支援結果の検証を行ってきている。いくつかの支援業務に関して、URAの寄与が研究力強化に対して効果があることが見出されてきた。一方で、当初効果的であるとみなされた支援内容に関して、さらに改善が必要とされるケースも散見された。当日はいくつか例を提示して、どのようにIR情報を活用していくことが効果的か議論を深めたい。



## P-2-5 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### ロジックモデルに基づく研究評価指標の整理

○若松 永憲、山下 瞳、谷口 真人  
人間文化研究機構総合地球環境学研究所IR室

総合地球環境学研究所では、設立当初から文理融合を中心にした学際研究や研究者と社会の直接の連携に根ざした超学際研究を推進している。その研究分野は自然科学に限らず人文学・社会科学を含めて多岐にわたり、これら多くの文理融合型研究の経験と、多様な形態による研究業績が蓄積する中で、従来とは異なる視点からの新たな評価指標による評価の導入が求められている。我々は地球研の研究活動の活性化に資することを目指して、達成すべき目標と構成要素となる各項目(評価指標)についてロジックモデルに基づいて整理し、その全体像の把握を試みた。

今回、これら評価指標の整理過程で見いだされた課題について、今大会の参加者と情報共有し、ともに議論を重ねることで、大学共同利用機関としての我々のミッションに新たな考察を加えていきたい。

## P-2-6 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 「形式知化モデル」による学内ノウハウ共有の低コスト化と 「形式知共有データ」の実証によるモデル評価

○清重 周太郎<sup>1)</sup>、三上 絢子<sup>1)</sup>、込山 悠介<sup>2)</sup>、長谷川 晃<sup>3)</sup>

1)北海道大学 附属図書館 研究開発室、  
2)国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター、3)北海道大学 附属図書館

大学組織内における現場ベースの暗黙知やノウハウの共有は、車輪の再発明によるコスト重複を防ぐという意味でも重要である。しかしながら、学術研究分野における論文・雑誌・学会ほどの形式知化・共有コストをかけられず、結果として暗黙知が認識・共有されずに散逸し重複コストを生んでいる。これは組織内だけではなく大学間においても同様の課題があるが十分な議論がなされていない。

北海道大学附属図書館では、現場の作業負担を抑えかつ大学間共有までならんだ「相互運用可能な学内暗黙知の形式知化モデル」を検討中であり、本発表ではモデルの提示ならびにモデルに基づき作成された共有データの実例として「北海道大学における研究支援活動データ(2012-2017)」を報告する。加えて共有データ同士が結び付くことで実現する分析の例や、モデルを現場へ適用するに際して現段階で考えられる課題と解決策の提示を行う。

なお、本モデルの構築には、持続可能な研究データ管理プラットフォームとして国立情報学研究所において開発中のGakuNin RDM(2019年6月現在)を採用している。

## P-2-7 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 海外有力大学と比較した教員と職員の割合に関する考察

○土田 拓<sup>1)</sup>、伊藤 広幸<sup>2)</sup>、垣田 満<sup>1)</sup>、井川 由貴<sup>1)</sup>  
1)徳島大学、2)信州大学

大学・公的研究機関の研究環境(基盤的研究費・研究時間)の改善に向けて、URAを始め専門人材のニーズが増え続けています。では、研究時間や研究費を十分に確保し、組織全体の研究力向上を実現するために、専門人材や事務職員はどの程度必要なのでしょうか。URAの質保証に関する議論が進む一方で、量的な側面、すなわちURAも含めた専門人材と事務職員の適正規模については、その議論の前提となる定量的な基本情報が、大学関係者間で十分に共有されていないように思われます。

そこで、本発表では、THE World University Rankingsに掲載された大学を対象に、職員数/教員数比と論文インパクト(Top10%論文数等)やランキングとの相関を検証するとともに、国別・学生規模別に職員数/教員数比の傾向を探ります。学科構成、経営基盤や職業分類、高等教育政策等の影響を考慮すると、単純比較は難しいですが、議論の叩き台として情報を共有できればと考えています。

## P-2-8 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 科研費ステップアップを後押しする科研費分析を目指して - 基盤研究(A)採択者の科研費採択履歴調査とその活用 -

○久保 琢也、伊藤 広幸  
信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 リサーチ・アドミニストレーション室

研究者にとって、これまでに獲得してきた科研費よりも大型の科研費に挑戦することは、より発展的な研究へとステップアップするための重要なプロセスの1つだと言える。しかし、それは同時にこれまで以上のリスクも伴うことから、実際に挑戦するか否かを判断する際には特段の慎重さが求められる。

発表者は上記の意思決定を支援するため、「どのような科研費獲得履歴を持っている研究者が大型科研費(基盤研究(A))に採択されているのか」を調査した。具体的には科学研究費助成事業データベースを用いて平成30年度、平成31年度に基盤研究(A)に採択された研究者を抽出し、分野別に過去10年分の科研費採択履歴の特徴を探った。

本発表では、上記の調査の概要や、どのようにこの結果を他のURAや部局へ展開・活用していったのかについて報告する。

## P-2-9 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 異分野融合研究推進のためのインフラ整備:研究者カルテデータベース

○三田 香織、鈴木 勝利  
中央大学

異分野融合研究のさらなる推進のため、中央大学では研究者カルテデータベースの構築を始めた。URAや職員が個々で研究者と面談後、その内容等は個々の知識や認識として蓄積されており共有・可視化はできていなかった。また、中央大学では理系と人社系キャンパスが物理的に離れた距離にあり、国際、産学連携、人文社会系等、それぞれ役割が特化したURAが在籍している。面談により蓄積される情報をデータベース収録により可視化することで、情報の幅広い運用が可能となり、より柔軟かつ的確な研究支援を展開することが可能となる。データベース構築を検討するにあたり、「直接的なインタラクションを通して得た情報」を蓄積するために「研究活動の流動性」を考慮した。情報をまず有機的なものと恒常的なものとして整理したうえで、タグなどの現状を表す検索機能をつけ、必要に応じたグルーピングをすることで研究者間や企業等とのマッチング時に効果的な運用を図る。

## P-2-10 : 研究経営・戦略・IR

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 文理融合を維持促進させるプロジェクトマネジメントとは

○天野 麻穂<sup>1)</sup>、川本 思心<sup>2)</sup>、片岡 良美<sup>3)</sup>

1)北海道大学 大学力強化推進本部 URAステーション、2)北海道大学 大学院理学研究院、  
3)北海道大学 大学院理学院 自然史科学専攻 科学コミュニケーション講座

異分野同士の学問の融合を「学際化」と呼び、特に、文系(人文科学・社会科学系)と理系(自然科学系)にまたがる学際化を「文理融合/連携研究」という。わが国の方針として、近年、社会課題解決を目的とした挑戦的な学際研究に焦点が当てられることが増えてきた。しかし、学際研究の中でも文理融合研究プロジェクトの成功事例は、全国的にも決して多くはない。

本研究では、北大研究者が中心となり15年近くにわたって実施されている文理融合プロジェクトに着目し、プロジェクトリーダー経験者のほか、当該プロジェクトに従事する研究者4名に対する半構造化インタビュー調査を行った。得られた調査データについて、M-GTA法に基づく質的分析を試みたところ、特に科学技術コミュニケーションの観点から、文理融合プロジェクトを効果的にマネジメントするために必要な要素を見出したので報告したい。

## P-3-1 : プレアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 「大分大学科研費倍増補完計画(vs科研費改革編)2」

○安部 恵祐、樋口 明弘  
大分大学 全学研究推進機構

大分大学URAチーム室は27年度に発足し、科研費採択につなげるための企画を実施している。その結果、27年度基準で29年度には30.4%の増額を果たせた。30年度申請では、科研費改革2018の影響により、基盤(海外)が申請できず、かなりの減額が予想されたが、微減の状態に留まった。31年度申請の結果は、30年度に比して、額・件数が回復し、採択保有数も過去最高になった。基盤Bの保有数においては、27年度時点9本であったが、30年度では25本(4月時点)と3倍弱に増加した。

今回、基盤B層を増やす取組みや他の種目の採択数増加に関する取組を紹介する。また、「開発研究」に移行するための取組や異分野チーム形成育成の取組を紹介する。

## P-3-2 : プレアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 相互レビューを中心とした申請書ブラッシュアップワークショップの取り組み

○菅井 佳宣、大西 将徳、田上 款、加賀田 博司  
京都大学 学術研究支援室

日本学術振興会が実施する科研費や特別研究員制度は、規模や対象の広さから大学における研究活動を支える重要な事業であるため、これらの申請支援はURA業務の中でも重要な位置を占めている。しかし多くの大学で行われている申請書のブラッシュアップには一定のエフォートが要求されるため、件数の増加に伴い質の低下や業務の圧迫を招く。そこで当室工学研究科担当チームでは申請書の相互レビューを行うワークショップを実施している。これはブラッシュアップの効率化だけでなく、自身の申請書の改善点を見つけるきっかけの創出も狙っている。これまで科研費(2回)と特別研究員(2回)の申請対策ワークショップを実施し、のべ46名が参加した。特に、2018年度に特別研究員申請対策ワークショップを実施した結果、採択率が約1.5倍に向上した。本ポスター発表では、過去の4回の実施から見えてきた意義や位置付けに加え、参加者の守秘意識などの課題について紹介する。



### P-3-3 : プレアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

#### リサーチアドミニストレーションとファンドレイジングアクションで大学を創る～

池田 一郎

国立大学法人筑波大学研究推進部外部資金課

発表者は事務職員でありURA兼務、准認定ファンドレイザー(日本ファンドレイジング協会)の資格を持つ。外部資金の獲得においては、公募資金、寄附金など多様な資金と獲得方法も様々である。わが国の大学等にも資金集めの職のひとつとして、アメリカなどで発展している『ファンドレイザー』が活躍するようになってきた。しかしながら、ファンドレイザーとの連携もさることながら、URAが行うプレアワードや研究戦略において、ファンドレイジングアクションを織り交ぜた展開をすることにより、資金獲得にかかわるプロセスの充実、資金獲得の増加、研究経営力の向上、大学等機関へのファンを増大、研究エコシステム形成、そしてURA自立化等へ寄与するであろうと考えた。ファンドレイジングアクションをURA業務や研究・産学連携支援業務の向上に生かすためにはどのような方策や活動があるかの話題提供とともに、会場の皆様とともに考える機会としたい。

### P-3-4 : プレアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

#### 科研費を基にした外部資金獲得につながるURA支援の在り方についての考察

○田中 久美子<sup>1)</sup>、高橋 仁<sup>1)</sup>、久保 琢也<sup>2)</sup>

1)広島大学 学術室 研究企画室、2)信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 URA室

広島大学では、科研費の申請直前に、希望者を対象としたURAによる調書のブラッシュアップを行っているが、URAの人数に限りがあることと相まって、支援対象者も限られ、結果として大学全体の科研費採択率向上に対するURAの寄与率は低くなっている。

そこで、発表者らは、試行的に一部部局で個別面談などの早期支援を実施し、効果的かつ効果的な支援方法による質の向上を探ってきた。さらに、調書の分析も行い、採否に関する特徴(文章量や書式等)を検討した。

一方で、採択科研費情報から有望研究シーズを発掘し、科研費に続く外部資金獲得等の支援も能動的に行っている。これは、前述の科研費支援をきっかけとした研究内容の把握や研究者との関係構築を基に展開できるものであり、科研費支援と研究シーズの発掘の併用により、基礎から応用研究に繋がる支援が可能となる。

本発表では、これら取り組みを紹介するとともに重要と思われた点を紹介する。

## P-3-5 : プレアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 特許情報分析に基づく連携候補企業の探索

○本間 紀美、杉尾 成俊、武智 真、小林 義和、川畑 祐司  
東京工業大学 科学技術創成研究院 リサーチマネジメントオフィス

大学保有技術の実用化において、企業との協働は不可欠であり、どのような企業と連携するのは、極めて重要である。候補企業の選定は、教員やURA・コーディネータの知識と人脈に頼るところが大きいが、連携に結び付きやすい反面、新奇性が高く市場が未形成のシーズについては候補企業が見つからない、新規参入企業を見落としてしまう等の問題点もある。

我々は、客観的な視点から連携候補企業を探索するツールとして、特許情報分析を活用している。まず、教員のヒアリングを実施し、企業との連携に関心を持つ教員と、その保有技術を洗い出す。次に、特許情報データベースで、シーズ技術に関連する特許文献(情報)を抽出し、出願年、出願企業、特許技術分類等の分析を行う。その結果と非特許情報を複合的に評価し、連携候補企業を選定する。ここでは、連携候補企業を探索するための、簡易的な特許情報分析の手法について紹介したい。

## P-3-6 : プレアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### URAの研究調書作成支援のあり方“科研費を例に”

○米澤 恵一郎、安藤 義人、諫山 宗敏、古賀 亜沙子  
九州工業大学 イノベーション推進機構 グローバル産学連携センター

URAが行う競争的資金申請書の添削支援が、審査結果にどのような影響を与えるのかを明らかにし、効果的な申請書作成支援とは何かを議論することを目的とする。九州工業大学内で収集した平成31年度の科研費申請の不採択結果をもとに、URAの支援の有なしで審査員による評点等がどのように変化しているかを分析し効果を議論する。分析した結果をもとに、より効果的な申請書添削支援策についても検討を行う。

## P-4-1：ポストアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

Post-awardは次のPre-award -SDGs関連事業の情報共有を通して-

○吉岡 佐知子、藤枝 絢子、若松 文貴、浅見 智子、坂本 翼、Aron Wittfeld  
京都大学学術研究支援室

京都大学ではSATREPS事業、JICA草の根事業といったJICA委託事業をはじめとする「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献する事業が多数実施されていますが、ODA実施を事業目的としているJICA事業やSDGs達成への貢献を主旨とする事業は、研究機関が普段実施しているJSPSやJSTの事業とは実施規程や望まれる成果が異なっています。京都大学学術研究支援室(KURA)ではこうした事業が採択後に円滑に開始されるよう事業実施に係る対外折衝・調整をはじめとする立ち上げ支援(Post-award)を行う一方で、Post-award支援を通してURAが得た事業独自の留意点や事業経験ラポの実施ノウハウを、将来的な申請を検討している学内の研究者に共有し、続く案件が申請時から実施を見越した計画を立てられるよう、またより事業趣旨にかなった良質な立案になるよう支援(Pre-Award)しています。Postを次のPreにつなげる活動をSDGs達成に関する事業の支援例から紹介します。

## P-4-2：ポストアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

大学発ベンチャー創出におけるURAの機能(福井大学事例)

○河上 寛<sup>1)</sup>、樋口 人志<sup>2)</sup>、西村 文宏<sup>2)</sup>、徳田 加奈<sup>1)</sup>、中山 淑恵<sup>3)</sup>、林 美果<sup>4)</sup>

1)福井大学産学官連携本部 研究企画・管理部、2)福井大学産学官連携本部、  
3)福井大学産学官連携本部 知的財産・技術移転部、4)福井大学総合戦略部門広報課

昨今の日本再興計画、並びにSociety5.0等、日本の成長戦略において、先端技術やイノベーションの重要性・必要性が強調されている。そのような中、大学等の研究機関が保有する研究成果を事業化する、いわゆる大学発ベンチャーの創出は、新たなイノベーションの担い手として期待されており、その創出をより促進するために、ベンチャー支援の取り組みを強化することが求められている。

本発表では、福井大学で近年創出された大学発ベンチャー2社をモデルケースとして、シーズ育成～事業化まで、直面した課題や取り組んだ支援等について発表する。

## P-4-3 : ポストアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 産官学連携大型プロジェクトにおける研究管理業務の 課題解決に向けた考察

○汐崎 七海<sup>1)</sup>、綾城 健児<sup>2)</sup>、河崎 さおり<sup>1)</sup>、木村 友彦<sup>1)</sup>、野利本 悠<sup>1)</sup>、片岡 良友<sup>3)</sup>  
1)山口大学 大学研究推進機構 研究推進戦略部、2)山口大学 学術研究部 研究推進課、  
3)山口大学 大学研究推進機構

イノベーション創出を狙いとする公的機関の大型補助金事業では、産学官連携による共同申請やコンソーシアム形成が求められる。複数組織にまたがり立場を異にする多数の関係者で構成される、こうした事業のプロジェクト運営は、大学にとって大きな挑戦である。中でもプロジェクト管理、知財管理、所定の報告書作成を含む情報発信等、研究管理業務における最大の課題は情報共有といえる。民間企業関連には機密事項も多く、機密範囲の調整や確認に細心の注意が求められる。学内でも立場の異なる研究者、事務部門、知財等の専門部門間の調整に割くエフォートも高くなっていく。山口大学が山口県と共同申請し2017年度に採択された文部科学省補助金事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」はこの典型事例であり、複数の民間企業が参画する事業運営の課題について、本事業を通じた知見をもとに解決策を提案するとともに来場者とも意見交換したい。

## P-4-4 : ポストアワード

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 研究の発展につながる科研費応募支援への模索

王 鴻香  
長崎大学 研究開発推進機構 研究推進部門 学術研究支援室

近年、多くの大学のURAは組織的に科研費獲得支援を行っており、その結果、「科研費獲得競争」を生み出している。しかし、研究者は科研費を獲得するためだけに研究をしているのではない。同様に、URAの支援活動の目的は、科研費の獲得だけでなく、研究力の向上と研究の発展に貢献することである。そのため、URAは常に高い意識を持ちながら支援活動を推進する必要がある。

長崎大学学術研究支援室では、URAによる高度な研究計画調書ブラッシュアップを実施するとともに、科研費獲得支援活動として、科研費に関する各種FD、書き方セミナー、相互ブラッシュアップワークショップ、採択調書の閲覧サービスなどを行ってきた。本ポスターでは、今までのどのような活動が研究者の研究マネジメントに生かされたか、どの活動が異分野連携研究や新しい研究への発展につながったか、あるいは逆に効果が無かったかを検討し、あるべきURAの科研費応募支援活動に関する一考察を発表する。



## P-5-1：専門業務

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 分野横断型研究促進の課題と展望～【筑波大・百人論文】 Researcher Blind Date Project – Meet your potential collaborator!

新道 真代  
筑波大学 URA研究戦略推進室

筑波大学では2000人超のプロ研究者(教員+研究員)が活躍しています。さらに、技官、テクニカルスタッフ、大学院生等、多様な研究に精通した人材が一万人以上も在籍する研究学園都市つくばの先端的な研究教育拠点でもあります。そのため、筑波大学URA研究戦略推進室(以下、URA)には学内外の研究者からアドバイザー・コラボレーター・機器・機材・試薬・資料・ノウハウ共有を求める相談が持ち込まれることが多々ありました。しかし、URAのネットワークのみでは解決に時間を要するケースもありました。

そこで、「京大100人論文」プロジェクトを手本に、本企画に賛同した筑波大学の研究者が登録した①研究内容、②悩み、③得意なこと、の3点をポスター掲示し、閲覧者が協力提案や解決策提案をコメント(post-it)する匿名の分野横断型のマッチングイベント「【筑波大・百人論文】Researcher Blind Date Project – Meet your potential collaborator!」を学内キャンパス型でまずは試行しました。当日は、イベント実施の効果と課題、今後の展望について発表します。

## P-5-2：専門業務

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 東京工業大学における異分野融合研究支援イベントの効果

○井上 素子、藤井 健視  
国立大学法人 東京工業大学 研究・産学連携本部 プロジェクト研究推進部門

学術研究の高度化に伴う専門分野の細分化への課題意識も追い風となり、現在の高等教育機関には、分野の垣根を超えた研究からイノベーションを創出することが期待されている。

本発表では、東工大の異分野融合研究イベントTokyo Tech Research Festival 2018を取り上げる。若手中心の研究者35名が一堂に会し、工・物・化・生命・原子力・社会等の学問領域間で融合研究の糸口を探った本イベントは、終了後、参加者の約7割が「異分野融合のきっかけを見つけられた」と評価した一方で、外部資金獲得に直結しないことや、参加者間での融合研究に対する意識の差、開催工数への負担感、といった課題も抱えている。

イベント設計から終了後のフォローまでの企画と工夫を整理することで、何が効果的だったかを検討し、分野間の橋渡し人材としてURAがスキルアップすることに資するデータを示したい。

## P-5-3：専門業務

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 筑波大学学内公募支援システムu-Radの開発

○鳥羽 岳太、森本 行人、新道 真代、久保 亮  
筑波大学URA研究戦略推進室

筑波大学では年間約30件の各種学内公募が行われているが、従来これらはEメールあるいは紙ベースで処理されており、教員・事務職員双方において無視できない量の業務が発生していた。そこでURA研究戦略推進室では、学内公募業務の効率化を主目的として、Webベースの電子申請システム「u-Rad」の開発を行った。応募書類の処理は、各部局で取りまとめの上、本部に提出というフローが必要になる場合があるが、u-Radではこのフローをシステム上で実現した。現在までに「申請」部分が完成し、今後「審査」および「報告書」部分の開発を行う予定である。全てのシステムが完成すると、申請、審査、報告書提出までの流れが全てシステム上で実現されることになり、業務効率化に大きく貢献することが期待される。また、本システムは教職員や学生からの提出物の収集・管理一般に応用可能であるため、今後、学内の多くの業務に広く活用されることを期待している。

## P-5-4：専門業務

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### プロダクトミックス戦略を用いた大学の知財戦略の検証

○中山 淑恵<sup>1)</sup>、樋口 人志<sup>2)</sup>、西村 文宏<sup>2)</sup>、徳田 加奈<sup>3)</sup>、河上 寛<sup>3)</sup>  
1)福井大学産学官連携本部 知的財産・技術移転部、2)福井大学産学官連携本部、  
3)福井大学産学官連携本部 研究企画・管理部

近年、大学はその研究成果を継続的にイノベーション創出に繋げることを強く求められている。「日本再興戦略2016」を受け、文部科学省および経済産業省は「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」を策定し、各大学等が経営レベルで知的財産マネジメントを捉え、知的財産予算を適切に措置するとともに事業化視点で知的財産マネジメントを実践しうる体制を整備すること等を推奨している。

事業化視点で知的財産マネジメントを行うためには、企業のような売上利益をベースとした投資効果の分析を行い、戦略を策定することが必要であるが、そもそも売上利益を成果指標としない大学においては、このような分析および戦略策定は行えていないのが実情である。

本発表では、大学の特許の収支分析に、マーケティング手法のプロダクトミックスの考え方を取り入れ総合的に検討し、知財戦略策定に有用な指標情報を考察する。

## P-5-5：専門業務

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 次世代の研究力マップ -博士人材育成を起源とする研究力指標-

○伊藤 広幸<sup>1)</sup>、佐野 恵利子<sup>2)</sup>、二歩 裕<sup>3)</sup>

- 1)国立大学法人信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 リサーチアドミニストレーション室、
- 2)大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 戦略企画本部 IR推進室、
- 3)国立大学法人東京農工大学 先端産学連携研究推進センター

研究力とは何か。一般的に「論文成果の指標」に注目が集まりがちだが、インプットを含めた全体サイクルの中で語られるべきであるという風潮になってきた。

今回、真の研究力は、研究・教育・社会貢献の3本柱を基に、俯瞰的に考えるべきではないかとの問題意識のもと、研究者の入口である博士人材の育成機能に注目し、質と量の両面の議論を見据えた「次世代の研究力」について解析した。

研究力指標の1つとして、研究大学における博士号の輩出について学問分野ごとに性別や外国籍、社会人枠等の分類を加えて、大学群や機関別、教員あたりの「研究者産出力」を提示し、博士人材育成に関する議論の礎としたい。

## P-5-6：専門業務

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 東北大学病院臨床研究推進センター(CRIETO)における高度専門職による オープンイノベーション戦略と大学の新たな機能 ～CRIETO東京分室におけるスタートアップ支援を中心として～

○宮田 和彦<sup>1)</sup>、根本 靖久<sup>2)</sup>、鈴木 由香<sup>3)</sup>、池田 浩治<sup>4)</sup>、下川 宏明<sup>5)</sup>

- 1)東北大学病院臨床研究推進センター(CRIETO) 東京分室 開発推進部門、
- 2)東北大学研究推進・支援機構 URAセンター、3)東北大学病院臨床研究推進センター 東京分室 国際部門、
- 4)東北大学病院臨床研究推進センター 開発推進部門、5)東北大学病院臨床研究推進センター センター長

CRIETOはライフサイエンス系の研究開発をシーズから臨床開発、企業への橋渡しまで、シームレスに支援する新しい機能を担っている。医療系有資格者も含めた高度なスキルを有する約140名の専門職スタッフが、治験の準備や実施、医療統計、開発計画の策定、薬事対応など、臨床開発特有の機能だけでなく、人材育成、URA機能(プレ/ポストアワード、知財、産学連携他)等々多岐に亘る機能までもカバーする。

近年、デジタルヘルス、AI、IoTなどによる医療技術の新たな潮流があり、新規参入を目指す企業・ベンチャーが増えている中、実用化を目指すための開発コンサルや文書作成等各種支援が必要とされ、東京分室を中心にそれに応える体制強化にも取り組んでいる。

さらに、学内のURAやオープンイノベーション機構・産連機構とも連携して、大学における大学病院のBUB(企業・大学・企業)ハブとしての、新しい医療・産業・生活に貢献するこれからの社会的役割を議論したい。

## P-6-1：産官学金連携

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 産学官金連携共同教育による共同研究等創出に向けた検討

安部 恵祐  
大分大学 全学研究推進機構

大分大学では、各URAが採択支援をおこなった事業のポストアワードを行っている。私はCOC+事業のポストアワードとして、産学官連携教育支援・キャリア開発支援を行ってきた。COC+事業を通して、様々な社会・地域ニーズの存在を知り、それらのニーズを素材として、新型教育や地域との共同研究推進にも活用できるのではないかとこの着想を得た。

そこで、新しく開発した教育プログラム等を用いて以下のことに取り組んでいる。

- 1) ニーズからイシューを抽出し、イシュードリブン企画の創生
- 2) 大学教育の効果と産業界の求めるコンピテンシーとのギャップフィル活動

URAとして、研究推進のみに注力しがちになるが、大学運営上の研究と教育の両輪を知る事で、幅広い視野で研究推進活動を行っている事例を紹介する。また、今後の広域連携などを視野に入れた活動方針やその他の産学官金事例も紹介する。

## P-6-2：産官学金連携

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### オープンイノベーション創発の京大モデルの構築

○伊藤 健雄、加賀田 博司、池田 郁子、笠原 のりこ  
京都大学学術研究支援室(KURA)

京都大学では、産官学連携本部、「医学領域」産学連携推進機構(KUMBL)、出資子会社等が協力して産官学連携を推進しており、URA組織である学術研究支援室(KURA)が学内の研究情報の提供とその蓄積基盤整備等、側方支援を担っている。加えて、文部科学省平成30年度「オープンイノベーション機構の整備事業」への採択を受けて、令和元年7月に「京都大学オープンイノベーション機構」を設置した。同機構は、本学と企業の組織対組織の共同研究のほか、大型あるいは将来大型化が期待できる産学共同研究をマネジメントすることをミッションとしている。発表では、KURAによる研究力強化支援活動と産官学連携本部やオープンイノベーション機構等による産学連携支援活動との相乗効果によるイノベーション推進の取組について紹介する。



## P-6-3 : 産官学金連携

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 島しょエリア産業活性化に向けた取組について

○近藤 ゆりこ、関田 健二  
首都大学東京 総合研究推進機構

東京都の大きな政策課題である島しょエリアの活性化に向けた取組について紹介する。本学では2015年よりサービスロボットインキュベーションハブ(serBOTinQ)のプロジェクトを立ち上げ、最先端のICT・IoT・ロボット技術を活用しデザイン思考に基づく【アイデアの創出→具体化・試作→製品化・事業化】といった一連のプロセスに対して、学際を越えた複数教員と協力企業が一体となって取り組んでいる。

## P-6-4 : 産官学金連携

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 産学官金連携によるPBLの取組み ～大学シーズ×中小企業によるイノベーション創出に向けて～

中川 貴登  
首都大学東京 総合研究推進機構

産学官金連携によるPBL(Project Based Learning)プログラム立上げの取組を紹介する。首都大学東京大学院ビジネススクールの授業としてPBLを実施。学生はグループに分かれ、対象となる都内中小企業の課題に応じて、グループで新規事業を提案する。

PBLの枠組みを通じて、大学の持つ研究シーズや学生の柔軟な発想と、潜在的成長力を有する都内中小企業とを結び付け、イノベーション創出を目指す。

特徴として、①ビジネススクール学生(社会人MBA学生)を対象としてPBLを実施することで高度かつ多様な提案を行う、②都立大学である強みを活かし、東京都中小企業振興公社等の都関連団体と連携し継続的な事業化支援を行う、③包括連携協定を結ぶきらぼし銀行の都内中小企業とのネットワークを活用することで潜在成長力を有する都内中小企業とマッチングを行う。

## P-7-1 : 国際

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### Supporting research on campus, internationally ～ 大学における外国人研究者のために

○桑田 治、吉岡 佐知子、アーロン・ヴィットフェルト、斎藤 知里、佐々木 結  
京都大学 学術研究支援室

日本の大学で増え続ける外国籍や海外出身の研究者を取り巻く研究環境には依然として言葉の壁を始めとする種々の困難があります。京都大学学術研究支援室(KURA)の外国人研究者支援チーム(FRESH)はそれらを軽減することもURAの大切な仕事だと考えています。私たちはこれまで英語による科研費の説明会や申請書レビュー、英語での公募情報の発信、学内の海外出身研究者同士のネットワーキングイベントの開催、新任の海外出身研究者の個別訪問などを行ってきました。今春は文部科学省の戦略目標を独自に英訳し、海外出身研究者が我が国の学術戦略について早く知ることによって能動的にJSTさきがけCREST等の課題設定型事業へ応募できる一助としました。さらに若手研究者へ向けた学内ポータルサイトの英語版構築に協力し、研究支援情報の集約・提供に貢献しています。大学が世界からの研究者にとって一層魅力的な研究の場となることを目指します。

## P-7-2 : 国際

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 日欧の大学間における国際共同研究に向けた取組

○伊木 貴子<sup>1)</sup>、白川 芳幸<sup>2)</sup>、富田 克彦<sup>3)</sup>  
1)関西大学 研究推進・社会連携事務局、  
2)早稲田大学 リサーチイノベーションセンター 研究戦略部門、  
3)神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部

関西大学・神戸大学・早稲田大学は、欧州の中心地であるブリュッセルに欧州オフィスを開いており、国際研究交流のために活用している。2019年3月には欧州のリサーチマネージャーの団体EARMAの年次総会で3大学合同の発表を行い、各大学の取組をアピールした。

本発表では、各大学における欧州の活動事例を紹介する。関西大学は、プレゼンス向上のため2018年度から新たに研究ワークショップを欧州で開催しており、欧州でのより活発な活動のため学内の連携体制の構築も図っている。早稲田大学は毎年、バーミンガム大学、およびブリュッセル自由大学(ULB)との相互の学内ファンドの支援の下に共同研究等を公募して研究力強化を図っている。神戸大学は毎年、多数の欧州研究者と共に実施するKobe University European Centre Brussels Symposiumの内容、また、Barcelona Smart City Expo World Congressに出展した神戸スマートシティプロジェクト等を紹介しPRしている。

## P-7-3 : 国際

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 外国人研究者の立場から見た外部資金獲得とキャリア・ディベロップメントー 大阪大学の支援例

姚 馨  
大阪大学経営企画オフィス

日本の大学では外国人研究者・留学生を積極的に招致している一方で、多くの場合国際的教育・研究インフラストラクチャの整備が遅れており、外国人の大学構成員の立場からはフェアな環境が構築されていない場合もある。多くの大学ではURAが外部資金の獲得において、外国人向けの支援を行っている。大阪大学経営企画オフィス研究支援部門では、「大学」の視点から外部資金の獲得を推進・支援するだけではなく、「研究者」視点のキャリア・ディベロップメントにも着目し、従来の科研費英語支援等に加え、関連のファカルティ・ディベロップメントプログラムの開発、外国人が一教育者として学生のフェローシップ申請を指導する際のガイド作成等、外部資金の獲得を軸に一連の支援体制を構築してきた。当発表では大阪大学の支援例を紹介することにより、外国人研究者向け研究支援体制の議論に寄与する。

## P-7-4 : 国際

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### EurekAlert!を活用した国際発信の取り組みについて

○吉木 朝子、十津川 剛  
首都大学東京 総合研究推進機構

日本の大学や研究機関の国際的な知名度は、その研究力の実際の高さに対して決して高くないのが実情である。大学の知名度やブランドイメージの向上のためには、研究成果をより多くの人に見てもらふ必要があり、そのためには専門誌だけではなく一般向けの記事を発信する必要がある。首都大学東京ではアメリカのサイエンスニュースサイトAAASのEurekAlert!を活用して、国際的に研究成果を発信する取り組みを行っている。4月以降掲載した2つの記事についてはページビューが10,000を超え、多くのひとの目に留まっている。また、EurekAlert!の記事が別のサイトで転載されることも多く、さらなる拡散が期待される。本発表では、本学での取り組みについて紹介する。

## P-7-5 : 国際

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### Research Impactとは？

ハリス ケイト

東京大学 大学院理学系研究科 研究支援総括室

Research Impact(研究成果の学術界を超えた影響)が、研究費獲得や大学評価において、イギリス、オーストラリアをはじめ世界的に重視されるようになった。研究の早い段階からImpactについて具体的な戦略を策定することによって、社会への影響を最大化し、研究への公共投資に対して責務を果たすことが一般的になりつつある。日本では、研究費獲得時にImpactの戦略を作る必要性は少ない。しかし、科学技術基本計画や各大学のビジョンを実現するためには、研究の社会への貢献及び社会との連携が不可欠であり、近い将来に、日本でもImpactが注目されることになるだろう。

RA協議会が加盟するURA団体の国際コンソーシアムINORMSでは、昨年の世界大会の開催直後に、このテーマに関して、URAの支援能力の国際的な向上を目指し、WGが新しく設置された。本発表では、Impact及びこのWGの活動を紹介する。

## P-8-1 : 人材育成

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 新任研究者のヒアリング調査にみる若手研究者の研究環境の現在と支援課題—②

○仲野 安紗、鮎川 慧、伊藤 健雄、太田 一陽、小泉 都、橋爪 寛  
京都大学 学術研究支援室

京都大学では新任研究者の職位分布などの人数構成は全研究者の構成と相似形をとっています。学術研究支援室ではここに着目して、特に支援依頼のない研究者の現状を知るため、2016年から2017年の3期1年半に渡って、新任研究者一斉に訪問依頼をかけ、承諾のあった研究者に対して研究環境に関するヒアリングを行いました。新任研究者はその多くがキャリア形成途中、任期付きの若手研究者です。本発表では、研究環境に関する本ヒアリング調査結果を紹介するとともに、分析に基づき、現在の若手研究者が実際に置かれている「研究室」内の状況について考察し、URAが実施すべき今後の取り組みを参加者と議論する機会にします。



## P-9-1 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### URAの活動範囲・認知度向上に関する課題解決のための ネットワーク形成の提案

○澤田 真理子、森岡 和子、貞許 礼子  
北海道大学大学院文学研究院

北海道大学文学研究院では、URA業務として、大学院生からポスドクまで若手研究者を対象にセミナー開催や助成金等の情報提供、研究発表支援などの支援を行っている。広くサポートについて周知しているが、支援対象者内のURA業務の認知度には偏りがある。また、支援内容も部局内のみでは活動範囲に限りがある。

本支援業務では、文学研究院の部局URAだけではなく既に支援を受けている若手研究者や他部局のURA、研究支援担当との情報共有を積極的に行うことで、支援対象者へのより広い範囲での認知や部局に留まらない支援活動の考案につなげている。ここでは、北海道大学文学研究院での若手研究者支援を事例に部局内および大学内での支援制度やURAの認知度とその活動範囲についての現状と課題について報告するとともに、URA業務の支援対象者や他部局の研究支援担当とのネットワーク形成による課題解決を提案したい。

## P-9-2 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 国際研究力強化拠点としての東北大学・知のフォーラムの役割

○房木 ノエミ<sup>1)</sup>、前田 吉昭<sup>2)</sup>

1)東北大学 研究推進・支援機構 URAセンター、2)東北大学 研究推進・支援機構 知の創出センター

東北大学・知のフォーラムは、国際的に開かれた日本初の訪問滞在型研究センターとして2013年に設立され6年を経過した。これまでに20以上の大型国際シンポジウム等のプログラムを開催し、ノーベル賞級トップレベル研究者を含め、国内外から700名以上の研究者を招聘し、のべ6千人以上の参加者があり、東北大学の若手を含む研究者の国際交流と活性化に寄与している。知のフォーラムは、1. 戦略的国際頭脳循環の場の構築による国際研究力強化、2. 異分野融合研究の促進、3. 海外派遣を含む若手研究者の国際的人材育成、4. 国内外の機関との連携活動、5. アウトリーチ活動としての知の裾野を広げる社会貢献、6. 日本初訪問滞在研究センターとして海外共同研究の推進活動を行なっている。これらの活動について、今回紹介と議論を行う予定である。

## P-9-3 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 民間企業によるURAその1:大型研究教育プログラム申請や国際認証申請に対する特徴的な支援

○松田 七美、高輪 めぐみ、中西 卓也、重根 美香、神谷 卓郎  
株式会社早稲田大学アカデミックソリューション

早稲田大学アカデミックソリューション(WAS)教育研究コンサルティングチームの取組を民間企業によるURA戦略その1~その4として発表する。本稿はその1として、大型研究教育プログラムや高等教育機関における研究教育の世界水準評価を示す国際認証に対する特徴的な申請支援について取り上げる。

文部科学省、内閣府、AMED等の大型研究教育プログラム申請や国際認証申請において、適切に募集情報を収集し、申請側の構想、要望、人員構成等を踏まえた上で、質の高い計画提案書等の作成申請作業を、限られた応募期間に教員のみで担うことには困難な側面がある。そこで弊社は、応募ニーズのある教員への情報提供、要望に応じた研究教育の専門分野に及ぶ申請書案作成や連携企業紹介等、多角的視野に立ち、各分野を専門とする研究員/コンサルタントによる丁寧な申請支援を行っている。弊社における申請支援の特徴的な事例を挙げながら、議論したい。

## P-9-4 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 民間企業によるURAその2:プロジェクト事務局支援と各種調査・分析

○中西 卓也、重根 美香、高輪 めぐみ、松田 七美、神谷 卓郎  
株式会社早稲田大学アカデミックソリューション

株式会社早稲田大学アカデミックソリューション(WAS)が提供する「研究推進サービス」(<https://www.w-as.jp/research/>)について、「民間企業によるURAその1~その4」として発表する。本稿はその2として、(1)研究プロジェクト及び教育/人材育成プロジェクトのマネジメント(例:事務局運営支援)並びに(2)各種調査・分析の実施及び実施支援のフレームワークを紹介する。具体的事項として、前者における「研究プロジェクトの契約締結」「スケジュール管理」「進捗状況の確認」「予算管理」「報告書作成」等の支援、また、後者では「各分野を専門とする研究員/コンサルタントによる研究・調査」や「大学で得られた研究成果を活用した官公庁・企業向け調査・コンサルティング業務」に伴う「プロジェクト企画立案」「実証実験支援」「データ分析」「報告書作成支援」等のサービスを説明する。

## P-9-5 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 民間企業によるURAその3:WASによる研究・教育・産学連携活動マネジメント の実際

○重根 美香、中西 卓也、高輪 めぐみ、松田 七美、神谷 卓郎  
株式会社早稲田大学アカデミックソリューション

株式会社早稲田大学アカデミックソリューション(WAS)が提供する「研究推進サービス」(<https://www.w-as.jp/research/>)について、「民間企業によるURA戦略その1~その4」として発表する。本稿はその2で述べたWASによる研究・教育のURA活動の直近の事例を3つの視点から紹介する。具体的には、①研究事業として瀬戸市菱野団地内における「地域主導型交通の社会実験」、文部科学省「オープンイノベーション機構の整備事業」内リサーチファクトリーマネジメント業務、②教育事業として文部科学省事業「次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT)」・「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)enPiT-Pro」のプロジェクト運営業務、③コンソーシアム企画・運営事業として「やわらか3D共創コンソーシアム」企画・運営事業を取り上げる。

## P-9-6 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 民間企業によるURAその4:アウトリーチ活動サポート

○高輪 めぐみ<sup>1)</sup>、松田 七美<sup>1)</sup>、中西 卓也<sup>1)</sup>、重根 美香<sup>1)</sup>、神谷 卓郎<sup>1)</sup>、古川 英光<sup>2)</sup>  
1)株式会社早稲田大学アカデミックソリューション、  
2)山形大学工学部/やわらかから3D共創コンソーシアム

早稲田大学アカデミックソリューション(WAS)教育研究コンサルティングチームの取組を民間企業によるURA戦略その1~その4として発表する。本稿はその4として、公開シンポジウムや展示会出展等のアウトリーチ活動でのサポートについて取り上げる。

活動内容や成果を広く発信できるアウトリーチ活動は重要であるが、企画から実施までを研究や教育と多忙な教員のみで担うことは大変である。そこで弊社がアウトリーチ活動についてどのようなサポートを行っているのか、コンソーシアム設立企画段階からサポートしている「やわらか3D共創コンソーシアム(会長:山形大学 古川英光教授)」での支援を実例で紹介する。弊社のような「企業」が関わることのメリットや今後の可能性について議論したい。

\* やわらか3D共創コンソーシアムHP:<https://soft3d-c.jp/>

## P-9-7 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### NCURAの歩き方

岡野 恵子  
横浜市立大学

NCURA(National Council of University Research Administrators)は米国で最も歴史のあるリサーチ・アドミニストレーターの職能開発組織で、毎年8月上旬に年次大会が行われます。この他にもSRAI(Society of Research Administrators International)やNORDP(National Organization of Research Development Professionals)といった組織がありますが、内容の幅広さや年次大会の時期の関係からNCURAが最も参加しやすく、これまでに3回(今年も無事参加できれば4回)ワシントンDCの会場に訪れています。最初の2回はURAとなって1、2年目、3回目は6年目でした。URAとしての経験がある程度積んでから久々に参加した年次大会では、大会の内容の進化とともに、受け手としての自分の視点や感じ方にも変化がありました。今回はそれらの内容についてご紹介し、NCURAに関心をもつ仲間を増やしたいと思えます。

## P-9-8 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 芸術系分野の研究成果の評価指標について

松山 久美  
筑波大学 URA研究戦略推進室 芸術系部局

芸術系の研究業績は、特に実技分野において作品発表に負うところが大きく、citation indexなどの論文業績を基盤とした指標では把握できない問題がある。業界内では認識された研究成果発表の形式であっても、分野外からは、それがどのくらいの位置づけとなる業績であるか理解されにくい。共通indexで業績を把握できる研究を支援する必要性がある一方で、分野特有の評価軸をもって研究の動向を把握し支援することは重要であると考えます。

そこで、芸術系分野において、キャリアパスとして必要な共通性や判断基準があるか個別に調べる試みをした。個別に調査した理由は、展覧会、図録、発表会といった形式の研究成果発表について共通に登録されたデータベースがなく、リポジトリ更新が確実でない傾向があるためである。

この課題は、芸術系学部のみならず、文科系学部、教育学部に位置づけられた芸術系学科における研究力評価にも所在すると考える。

## P-9-9 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 研究広報の取り組み～研究広報誌Miyacologyの発行～

○市野 貴之、渡邊 幸佑  
首都大学東京 総合研究推進機構

首都大学東京の研究の今を伝える研究広報誌「Miyacology」について紹介する。  
本学では、都市と地域、人間と自然、生活と社会、日本と世界を繋ぐ架け橋となるべく、日々生み出し続けている様々な最先端研究と研究者の想いに深く切込み、その研究成果について、より「分かりやすい」、「研究のワクワクを伝える」ことを目指した研究広報活動に取り組んでいる。

## P-9-10 : その他

[ポスターコアタイム] 9月3日(火曜日)14:50-15:50 [会場] B棟ロビー(1階)  
9月4日(水曜日)12:20-13:50

### 東海大学における研究推進について

○桑田 晴香、横田 秀和、大塚 志穂、井上 裕葵  
東海大学 研究推進部 研究計画課

東海大学は、全国7キャンパスに19学部75学科・専攻・課程を有する総合大学です。研究推進部では、研究活性化の様々な取り組みを行なっています。  
今回は、研究の学内交流や研究広報について等をご紹介します予定です。